

横浜市ウェブサイトは、2019年3月26日に全面的にリニューアルしました。  
表示されているページは2019年3月26日時点の旧ウェブサイトのアーカイブであり、情報が古い可能性があります。  
最新の情報については、新しい横浜市ウェブサイト (<https://www.city.yokohama.lg.jp/>) のトップページまたはサイトマップからお探してください。

[都市整備局](#) >> [都市デザイン室](#) >> [審議会等](#) >> [横浜市都市美対策審議会](#) >> 第13回都市美対策審議会景観審査部会

## 横浜市都市美対策審議会

### ■ 第13回 横浜市都市美対策審議会景観審査部会議事録

議題	1. 特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針に関する意見について (みなとみらい21新港地区都市景観協議地区 中区新港二丁目11番4)(審議)
日時	平成22年6月15日(火) 10時から11時30分まで
開催場所	港湾局第1会議室(産業貿易センタービル 6階)
出席者 (敬称略)	委員 岩村和夫(部会長)、卯月盛夫、金子修司、中津秀之 書記 齋藤泉(都市整備局都市づくり部長)、国吉直行(都市整備局上席調査役)、中野創(都市整備局都市デザイン室長) 関係者(関係局)

	<p>千葉健志(港湾局企画調整課計画担当課長) 高村英一(港湾局企画調整課担当係長)</p> <p>(事業者等) 横山之雄(日清食品ホールディングス(株) 執行役員CFO) 青木 淳(日清食品ホールディングス(株) マーケティング本部) 廣瀬達彦(五洋建設(株) 建築設計部 課長)</p>
欠席者 (敬称略)	<p>委員 加藤仁美、高橋晶子</p>
開催形態	議事1:公開(傍聴者1名)
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針については、本日の意見を踏まえ協議方針を取りまとめ、都市景観協議を行う。</li> </ul>
議事	<p>1. 特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針に関する意見について (みなとみらい21新港地区都市景観協議地区 中区新港二丁目11番4)(審議)</p> <p>○市から議案の概要を説明した。</p> <p>○事業者から概要及び検討経緯を説明した。</p> <p>(岩村部会長) 植栽される樹木は、どのようなものを植える予定か。</p> <p>(事業者) 歩道の街路樹と高さを合わせることを考えていますので、最初からある程度大きさのある木を考えています。 敷地周辺には3種類の木があり、それぞれの木に合わせるのもバランスが悪いので、敷地内に関しては高さ と形状を合わせ、ハナミズキを植えることを考えています。</p> <p>(岩村部会長)</p>

建物のレンガは、質感のあるものだと理解した。歩道の敷石はどうか。

(事業者)

今の歩道と同じ色、目地のタイルにしたいと考えております。あわよくば歩道も全部張り替えて、敷地と一緒に感じる感じだとありがたい、というぐらい、歩道との一体感を考えております。

(岩村部会長)

素材について、ガラスは上部と低層部で、どんなガラスを考えているか。

(事業者)

基本的には透明で、反射をほんの少しだけ入れて、熱環境の対策も考えたいと思っています。

(岩村部会長)

これはシングルガラスか。

(事業者)

合わせガラスになると思いますが、面積が大きいので、飛散防止も考え、大きさを含め、検討中です。

(卯月委員)

市に質問したい。今回この土地に売却条件をつけたと口頭で説明があったが、その売却条件についてはもう協議済みでOKであって、さらに今回の景観条例に基づく協議をしているということか、それとも、売却条件、配慮事項も含めて、今回一緒に協議するということか。

(千葉課長)

先ほど申しました条件、附帯意見については、都市景観協議地区の規定におおむね合致していると思いますので、今回、協議の方針についてお諮りしているということでございます。

(岩村部会長)

これから委員の方々1人ずつ、コメントをいただきたい。

(中津委員)

植栽は何でもいいかなという気がしている。周りに合わせてやっていただければいい。

周りの敷地との関係を持ちながら、より楽しく街を歩けるようにするため、人のネットワークや、歩きながら見えてくるこの街特有の風景の体験についてどう考えるかという視点が、かなり薄いと感じた。

具体的に言うと、西側の接道部、その壁面側に2メートルぐらいの管理通路がある。通路は当然必要だと思うが、こういう作り方が、地域の人々の歩行動線、ネットワークを考える上でどうなのか。むしろこういう所こそ、

建物の外周部が率先して人を導き込む、回していくような動線があり、楽しく歩けるようなことを考えていただければ、この街の動線計画が変わってくるのではないかと。

1階がエントランスホールで、大きな階段で2階に上がっていったときに、2階の部分で公園のほうに視線が抜けたら、階段の位置づけが、都市の人に開かれた回遊動線としてすごくおもしろくなっていくのではないかと。こういう所からデッキで公園に渡れば、建物自体が、ワールドポーターズから渡ってくる人の動線をより強く誘発し、この建物を通して公園に行くという動線が生まれ、この計画がもっと市民に根づいた事業になるのではないかと。

表側の顔については、重厚なものがあってもいいと思うが、新港パーク側の顔は、もうちょっと開かれた公園側からの顔のようなファサードにしていただければいいかなという気がする。

駐車場を地下に持っていないで1階にあるのは、コスト上の問題なのか。

(事業者)

敷地の大きさ上、スロープをつくと効率が悪くなります。いろいろなことを考えると、やはり1階がベストではないかと考えます。

(中津委員)

2階駐車場や地下駐車場というわけにはいかないわけですね。大通り側から、歩きながら1階のガラス越しに向こうの緑が見えるようなものがあるのもいいと思った。ランドスケープ的な話でいえば、西側の接道部の緑地の形態だけでもどうにかしていただければ、よくなるのではないかと。

(岩村部会長)

新港パークからのつながりというのは、土地を売るときの条件に入れているのか。

(高村係長)

車の出入口をなるべく新港パーク側の道路側に設けるといことは、条件に載せています。

(岩村部会長)

ホールの階段を上った所から向こうが見えるというようなことは検討したのか。

(事業者)

階段を上がって窓を、ということで、実際に現地に行ってカメラを窓の高さにして見てみたら、街灯と標識が目の前に出てきてしまって、これは逆に見せないほうがいいかと判断しました。

(金子委員)

新港地区は、まさにここに書いてあるような“島”状のエリアで、そこから海が見える、また海から見えるというゾーンであることが大変大事である。これが基本にあるが、全体的なデザインのイメージとして、いかにも閉鎖的な印象を与えてしまうのではないか。これはまことに残念だなという気がする。

年間100万人が集まる施設になるということについて。今、この辺は割合に人が来ないが、人の動線等を考えると、もう少し幅広く、ネットワーク化できるようなものを取り込む案でよかったのではないかと思わざるを得ない。つないでしまうようなことができなかったのかなと。この枠の中だけで計画をおさめてしまわなければならないのではなくて、大胆な提案があったらおもしろいなという感じがした。

(岩村部会長)

「つなぐ」というのは、何と何をつなぐということか。

(金子委員)

例えばワールドポーターズ側との連携とか、かなり大規模なことをやってもいいのではないか。もう一つは、新港パークのほうにオーバブリッジで下りていけるような、このエリア全体を見据えた、博物館の閉じこもった感覚ではないものがあるかとも思う。

それと、レンガタイルの色調と素材感。これは赤レンガ倉庫と同時に見えるゾーンではないという感じもするが、質感のあるもので、願わくは、味わいのあるつくり方がほしい。

もう一つは、分節化について。スリットにガラスが入って、照明が出るようなイメージだったが、ディテールやそのありようについて、例えばもっと幅を広くとか、深みを出すとか、工夫が必要だろう。まだ実施設計のレベルまで行っていないと思うが、そのような協議をデザイン室も含めてやっていただきたい。

年間100万人の来街者があるならば、非常に魅力的な建物にならなければいけない。大変期待するところだが、この場所にこの建物がなければならないという論理が足りない。例えば中から外が見えたり、外から見たときに、新港地区にあるようなものになるといいな、というのがちょっと足りなくて、残念な気がする。

(岩村部会長)

附帯して伺いたいが、メインの人の流れはどうなるのか。

(事業者)

みなとみらい駅もしくは馬車道からワールドポーターズの南側を通過して、交差点に1度人が集中して、角地から人が入ってくると思っています。

館の特性として修学旅行、小学生等の誘致が一番重要なキーになってくると思います。そういう意味では、平日に関しては、バスが来て、駐車場から、中に入れていただいてという流れで考えています。

(卯月委員)

これまでいろいろな協議を、この審議会ですべてやってきたときに、主に建物の遠景、ボリュームとか配置が、大きな地域のコンセプトの中でどういう意味を持つかということで議論してきた。今回は、模型を見ても、地域の中でそんなに違和感がなく、ボリュームや配置についてそんなに問題はないし、用途も地域の活性化のために役に立つということで、大変好感を持っている。

ですから、あえて次のステップの話をしたくなるわけで、大きく分ければ2点。

1点は、中景、近景になったときの1階部分の扱いについて。この地区は手前に50メートルの臨港幹線道路があって、向こうに渡りたくない、途中で引き返したくなるという、車中心の印象を受けてしまう。子供たちがバスで行くのはいいかもしれないが、駅などからぶらぶら歩きながらこの博物館へ行く人は相当歩くことになる。臨港幹線の手前の横断歩道から見たときに、グーッと引き入れて「あ、入ってみたい」と思うような気持ちのつくり方がとても重要だと思うが、それがまだ足りないと思う。

西側の8メートルセットバックをもっと広くして、横断歩道から真っすぐ行くと新港パークの緑が見える、そして右にこの建物の入り口が見えて、博物館に入る人と緑に行く人と分かれて、博物館で楽しんだ後、新港パークに行ってみようかなという、その2つのアクティビティを想定させることが良いのではないか。そう考えると、建物に入ることは角を切り取って誘導しているが、新港パークのほうへ行くことについては、全く誘導していないので、もう少し誘導してほしい。

建物の配置はもう決まっているとすれば、エントランスホール、あるいは大吹き抜けの空間を外からどのように見せて新港パークのほうに誘導するかといった工夫をしていただければ、この場所にこの建物ができて、博物館という良い機能ができて、周りにもアクティビティが広がっていくという感じがすると思う。

2点目は、外壁の扱い。特にレンガ調タイルについて。新旧の対立とか、倉庫街があったからレンガ調タイルということは、だれでも考えることで、私はとても素直な考えだと思う。問題は、ガラスの壁面とレンガ調タイルのバランス、調和だと思う。

いわゆる組積造というか、かつての倉庫街の倉庫を部分的に改修して新たなものをつくったというイメージをつくらしていると思うが、タイルの面積が極めて大きいので、組積造の重厚さはなかなか表現できない。それがコンセプトだと言われると難しいと思う。新旧の対立であれば、エントランスホールの扱いも含めて、1階部分と5階部分のガラスの取り扱いと2、3、4階のレンガ調タイルの扱いを、例えば壁面、ツラをちょっとずらすと

か、両方の仕上げがうまく調和しているような雰囲気を出すべきではないかと思う。

池田の博物館の写真も見せていただいたが、非常にマッシブな扱いで重厚感を持って、中に入ると逆にとても温かみがあるというのをねらっていることは重々わかる。もしそうなら、極端に言えば全く倉庫に見せてしまったほうがいいわけで、協議の中でだんだん中途半端になってきている。本当にソリッドで固く、倉庫に見せて中でワッとやるという感じが、開放、開放といってガラスが増えてきた中でなくなってきている気がするので、設計されている方も、余り満足していないのではないか、という印象を受けてしまう。

その2点が気になった。

(岩村部会長)

資料4に戻っていただくと、欠席委員の意見があり、これは今、お三方からいただいた意見と重なる部分が多い。特に加藤委員は、卯月委員と中津委員から指摘があった部分と随分オーバーラップする。遠景的にはなじんだように見えるけれども、閉鎖的なデザインになっている。これは、この施設の利用形態や機能との関連もあり、全く開放的にするのは不可能だとは思うが。

「開放的にする」という意味合いが、人の通りをつなぐという意味での開放感なのか、あるいはどこかに抜ける視点が用意されていて、それがそのうちすごく人気が出て、人が集まるようなポイントになるといったことも含まれているのかなと思った。

高橋委員は、この案に対して否定的な意見はなかった。もともと倉庫群があった港に立地するという点、再び「倉庫」というキーワードが出てくるが、分節化というレベルで言えば、この案でいいのではないかといった意見が書かれている。事例として書かれているのは、ドイツで、近代的な工場とか倉庫を近代遺産として残し、それを将来のまちづくりに活用していこうという非常に優れた例だが、ここの立地とは条件が違うと思う。これは近代工業社会の遺産で、倉庫という側面からも、少し違うかもしれない。むしろハンブルグの倉庫群みたいな話のほうが近いかもしれない。

2番目は、素材が大事だということで、これも今後、工夫をしてほしい。本物の赤レンガ倉庫には一切チープなイメージはない。「チープなものを用いず」と高橋委員からはあるが、ここに来てチープな外壁があると、まずいということだろう。赤レンガ倉庫と競争するのは難しいが、ぜひ工夫をしていただきたい。

それから3番目、1階部分のデザインディテール、人が歩道に立ったときに近景あるいは触景と言ったほうがいいかもしれないが、そのディテールが大切になるのではないか。将来的にこの大通りが魅力的になって、赤レンガとの行き来ができるようになって、さらにそれが周辺の人通りにつながっていくとすると、その建物に立ったときの、特に1階部分のディテールについて、2辺支持のガラスのサッシレスな面は最近流行りではあるが、

今後とも、中を見たくなるような表情を検討してほしいということで提案されている。次に、私の意見を述べさせていただきます。

「倉庫の記憶」というキーワードが随分出ている。赤レンガ倉庫というのは、保存・再生、コンバージョンの日本でも非常に優れた例ということで、さまざまな賞も勝ち得ている。一方にそういう集客能力のある施設があって、ちょうどその反対側に、新たに100万人集客するというと、そのデザインを「倉庫」というキーワードでまとめていこうとするときに、その倉庫のあり方が問われてくる。

これは新たに創出する擬似的な倉庫ということになる。言ってみればミュージアムというのは、そもそも半分は倉庫である。そういう観点から、ミュージアムとしての倉庫—ミュージアムと言ってしまったほうがいいかもしれないが赤レンガ倉庫と対峙しているということで、赤レンガの真似をしたのではないということと、そこに何か新たな景観をつくり出すというイメージではないか。

そこで、割り肌に近いようなレンガタイルを用いる、それは一つの選択なので、十分あり得ることだと思うが、一方で安易ではないかといった意見もある。デザイナーとしてはあり得る話だと思う。

それから、分節化ということ。これは非常に悩ましい議論で、セットバックしたりしながら行う垂直面での分節化と、立面を見たときに、それが美しいプロポーションを持っているかどうかということ。市の資料だと「威圧感」という言葉が使われているが、それは正しくない言い方なのかなと。ファサードが威圧感を与え、分節化によって和らげるということはあるが、言いかえるとスケール感だと思う。スケール感というのは建築のプロポーションのことだ。暴力的な大きさや広がりの方が目の前に立ちはだかるというデザインもあるが、それはここでは求めていないということだ。

例えば、この模型は、立面図を見るよりはるかに可愛らしい。柱型の所にガラスのスリットが通っている。これは夜景を見たときにその意図がわかったが、そこに照明を仕込んで夜景をつくろうということだろう。ただ、建築的な構造の意味からすると、柱の所にガラスがあるというのは、本当は変だ。仮に柱型をガラスで処理したとして、向こうは見えないから、結局ガラスでなくてもいいという話になるのかもしれない。そのときに、上のガラスと下のガラスをつなぐ材料として使ったというデザインの論理もなり立ち得るので、その辺はきちんと説明できるようにしていただきたいということと、実際のデザインとして魅力的なデザインにしていただければと思う。

それは、ツラでおさめるのか、あるいは下げるのか、それからサッシレスにするのか、そういうことと深くかわってくるが、今後、詳細を詰める段階で考えていただけることかなと思う。

それから、夜の景観という話が出たが、この辺は夜遅くまで歩く方が結構多い。だから、街灯や歩道周りの夜間の照明に関して、特に歩行者の部分についてはぜひ検討いただきたい。歩道に埋め込むという形もあるか



もしれないし、街灯を並べるのがいいということではないので、工夫をしていただき、館が閉まった後の雰囲気として、ここをそぞろ歩きたいような人たちがぜひ出てきてほしいと思う。

その観点で言うと、8メートルセットバックの部分の植栽のあり方について。今後、ランドスケープを詰めていく過程で出てくる話だと思うが、心地よく歩けるような空間が欲しいという気がして、それと緑とをどうマッチングさせていくかという気がした。

今までの委員の意見に対して反論や、事業者の立場として意見があれば伺いたいが、いかがか。

(事業者)

参考にさせていただいて、工夫できるところはぜひ工夫していきたいと思います。

(国吉書記)

横浜市としては、ここに来てここから帰っていただくのではなく、この後にいろいろ回ってもらいたいと思う。その動線を考えたときに、新港パーク側に人が流れるようなルートがあってもいいのかなという感じがした。この幹線道路ではなくて緑側、新港パーク側にうまく人が流れていって、赤レンガ倉庫側に行く、あるいは赤レンガ倉庫側からそちらを通ってくる、そういうルートのほうが歩行者にとって魅力的なのかなという感じがし、それをどうやってつくっていくかということが気になった。そうすると、バスが入るルートに近い所まで植栽でがっちり固めないで、建物際の歩行空間についても、歩道と連続し一体化するようなとり方があるのかなと思った。

これは横浜市サイドの問題だが、新港パークに渡るような横断歩道を、この辺はとり得ないのかどうか、考える必要があるということになる。

(岩村部会長)

一市民の立場からすると、そういうものがぜひ欲しいという意見は出ると思う。それは市との協議事項かもしれない。

(中津委員)

資料には、西側と北側について、「歩いて楽しく賑わいのある街並み」と書いてある。この「歩いて楽しく」ということを考えて資料を見ていると、博物館と公園とが一体となった遊歩道みたいなものができれば、線的な賑わい空間になる。日曜日等にはここで祭りみたいなものがあると、こちら側から人が「向こうへ行こう」となるかもしれない。簡単なことではないという気がするが、いかがか。

(千葉課長)

貴重な意見だと思いますので、今後、検討させていただきたいと思います。

(岩村部会長)

せっかく100万人来るわけですから。それは日清にとっても非常に大きなインパクトになる可能性がある。

(国吉書記)

横浜市では150周年のときも、ミュージアムをネットワークして紹介するような話があった。今後もそれを連続してやっていくかどうかは、観光行政の範疇だが、その際には、この施設もネットワークに入っていただくことが必要である。そのネットワークをどうやって歩くだらうかということも想定しながら考えたほうがいいと思うので、ご配慮いただきたい。

(岩村部会長)

模型や図面では、レンガタイルの壁面には設備の換気口とか、小さな窓が一切ない。これは将来的にもそのような設計をするのか。

(事業者)

基本的に大きい換気につきましては全部屋上に上げ、空気の換気に関しては、効率も考えまして東側の面に持って行って、できるだけ細いがらりにしまして、色もタイルに合わせようと考えております。

(岩村部会長)

では、本日の意見をまとめさせていただく。

まず、一つの大きな論点は、ネットワーク、人の流れということだった。

赤レンガ倉庫に対峙する形で建てられるこの博物館、年間100万人来場するなら、その一部の人たちがそこから染み出していく。あるいは逆に、外側から来てここを訪ねて、さらに赤レンガに行く、あるいは新港パークのほうに行くという意味で言うと、将来的には非常に魅力的な場所になる可能性があるので、歩道や緑地など、ランドスケープのレベルと、例えばオーバブリッジをつくるといった形で人が滑らかに動けるような動線が考えられないだろうか。ブリッジに関しては、市の協力ができないが、今はできないとすると、将来的に対応できるような形にしておくという可能性もあるかもしれない。

閉鎖的という話があったが、この博物館の中だけですべてが完結するというわけではない。賑わい、というところで、ショップが顔を出しているが、ミュージアムショップだとすると、余り賑わいという形にはならない。博物館だから閉鎖をするという部分と、すごい空間ができるエントランスホール、そこがもうちょっとオープンになっていいのではないかという意見は当然出てくると思う。デザイナーや事業者の考えによると思うが、せっかくあれだけすごい空間ができるのとすると、それを閉じた形で処理するのは残念ではないか。それがネットワークという話にもつながっていくかもしれないという論点があった。

もう一つの論点は、分節化ということと連動する素材の問題。

例えば「倉庫」というキーワードがあって、それをこの施設の中でどう位置づけるのかに通じることだが、赤レンガ倉庫のような歴史的な資産、そういうものに基づいた価値にその理由がある建物と、今回、全く新しい形で、それに匹敵するものをつくろうという意気込みだが、表現のあり方としては、必ずしも倉庫に埋もれなくていいのではないかという意見があった。

ただ、一方で、「倉庫」と割り切ってしまう、つまり博物館の半分は倉庫だということ、それから、場所の記憶として倉庫というものが極めて重要だということであれば、新しい建物の中で「倉庫」というキーワードをどういうふうデザインとして表現するのか。既にこういう形で提案されているので、さらにもう一段魅力的なものにするためには、素材の問題とか、ガラスとレンガタイルの対比というものを、ディテールも含めて今後、より高次のものにしていただきたいという話があった。

それから、夜間の景観ということ。これは周辺、近景からもよく見える施設なので、太陽の光の動き方、それから太陽が沈んだ後の光の見え方といったところで、特にこの施設が閉まっているときに、近くを歩くときの魅力的な外部空間、それをぜひ、頑張っていただけないだろうかということがあった。

欠席された方々も含め、このような意見だった。

これで予定された議事はすべて終了したので、本日の審議内容について事務局に確認をお願いします。

(中野書記)

議事(1)特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針に関する意見につきましては、委員の皆様から、外構につきましては周辺歩行者ネットワークを踏まえた賑わいの工夫など、外構について引き続き工夫していただきたいというご意見、外観につきましても素材を含めて、夜景も考えた上でさらに工夫してほしいというご意見などをいただきました。

このようなご意見を踏まえて、本市といたしましては、条例に基づいて協議の方針の最終案をまとめまして、事業者の皆様にお伝えした上で、協議成立まで誠意を持って協議をしまいたいと思っております。

次の都市美対策審議会について、現時点ではまだ予定が立っておりませんが、協議結果のご報告はさせていただきますと思っています。

本日の議事録につきましては、本市の保有する情報の公開に関する条例に基づきまして、あらかじめ指定した者の確認を得た上で閲覧に供することとなっておりますので、議事録は部会長の確認を得ることとさせていただきますと思っています。

資料	- <a href="#">第13回景観部会配布資料</a> (PDF 2.1MB)
特記事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本日の議事録については、部会長が確認する。</li><li>・ 次回の開催日時は未定</li></ul>

[都市整備局](#) >> [都市デザイン室](#) >> [審議会等](#) >> [横浜市都市美対策審議会](#) >> 第13回都市美対策審議会景観審査部会

都市整備局企画部都市デザイン室

ご意見・お問合せ - [tb-toshidesign@city.yokohama.jp](mailto:tb-toshidesign@city.yokohama.jp) - 電話: 045-671-2023 - FAX: 045-664-4539

- 2010年 08月 18日 作成 - 2010年 08月 18日 更新

©2010-2010 City of Yokohama. All rights reserved.